

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) ジョブクラス編



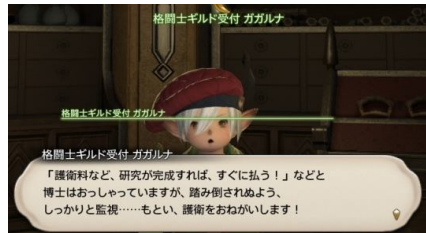
モンククエスト

亡国からの雷動

格闘士ギルド受付

ガガルナ： エオルゼア戦史の研究家…… 「エリック博士」をご存じですか？ その道の第一人者として、名を知られたお方です。それと同時に、話がとても長く、冗長で饒舌で、なおかつ、研究費を湯水のように使うことでも有名なお方でございます……。そんな博士が最近、フィールドワークのために古戦場を巡っている、という情報を得たのでございます。古戦場とは古代の戦場跡のこと。いずれも、人も寄りつかぬため、凶悪な魔物がのさばる危険な場所ばかりです。我らは、研究資金の出資者である「ライブラ銀行」から、博士の護衛を任せられているのです。万が一のことがあれば、ギルドの信用問題に発展します！

実はすでに、**都市アラミゴ**からやってきた「モンク」を一名、博士の護衛用に派遣しているのです。しかし……勤務態度が悪いとのこと、博士から人員の追加要望がありましてね。ちょうどよい機会ですので、◇◇◇さんに、博士の護衛をお願いしたいのです。近頃、注目を集めている「モンク」に触れる、よい機会となりましょう。早速、ウルダハの彫金師ギルドにいる「エリック博士」に、ご挨拶をお願いいたします。「護衛料など、研究が完成すれば、すぐに払う！」などと博士はおっしゃっていますが、踏み倒されぬよう、しっかりと監視……もとい、護衛をおねがいします！



エリック： ……来たな！ いやいや、名乗らなくて良い！ ◇◇◇だろ、聞いているぞ。吾輩は、ひと呼んで「超自然探求者・エリック」！ 研究テーマは…… 「古戦場のエーテリック解析に基づく戦史の再構築」だ！

例えば、君は「古戦場」というと、何を想像するだろう？ どこぞの野原か？ 荒野か？ だが、違う！ それは、まったくもって誤りだ！ 戦場とはどこにあるものだ？ 有史以来……人々は、あらゆる地で、戦闘を行ってきた。それを斬新かつ革新的に解釈することこそ吾輩の使命！

つまりそれは、君の使命でもある！ 本来は、吾輩の護衛であり、崇高な研究に心酔する、「モンク」の「ウィタルゲルト」が同行すべきなのだが……

どこをほっつき歩いているのか、ちっとも戻ってこない。彼はアラミゴ出身の「モンク」であり、「チャクラ」を解放し「気」を操ると評判の男だ。

……だが、戻ってこないのだからしょうがない。君に来てもらうしかない事情が、よくわかっただろう？

さて……前置きはこのくらいにしよう。今回、吾輩に同行してもらう古戦場は、中央ザナラン「シラディハ遺跡」。ここが重要である理由は…… 亡国「シラディハ」の歴史が物語っている！

間抜けな顔だな……さてはシラディハを知らないな？

湧水の王と称されたララウエフ・シラ・タタウエフ王亡き後、シラディハは混乱期に入り、ララウエフ王の推進し……

……成功を……増税で……各地で……が爆……乱れた。

そこにつけこんだのが……だ！ ……なので……のうえ……

……ともかく……だが……

しかし……だから……ははじめ……おいて……

……い……おい！ 君！ 聞いているのかね！？

すさまじく興味をそそられる逸話だろう？ 現在の研究者の中には、異なる見解を示す者もいたのだが、論文を発表する直前、行方不明になってしまったと聞く。

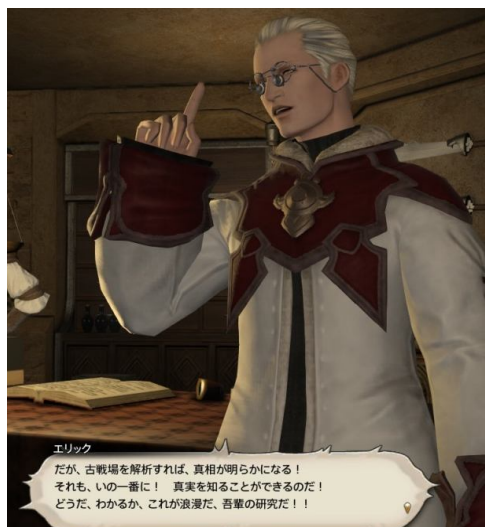
だが、古戦場を解析すれば、真相が明らかになる！ それも、いの一番に！ 真実を知ることができるのだ！

どうだ、わかるか、これが浪漫だ、吾輩の研究だ！！

さあ、中央ザナラン「**シラディハ遺跡**」へ行くぞ。◇◇◇、君は現地に先行し、この「エーテル計測器」を設置してくれたまえ。

万が一、吾輩の戦史講義を聞き洩らしたなら、遠慮なく吾輩に再び問いかけるがいい。

いいか？ もう一度、吾輩に話しかけるんだぞ？



エリック： でかしたぞ！ これで、この地のエーテルを測定すれば……むっ！？
やはり出たか、古戦場には魔物がつきものだからな。◇◇◇、君の出番だ、しっかり頼むぞ！！
とっとと蹴散らして、とっとと計測を済ますのだ。
いいぞ、その調子だ！ データがどんどん流れこんでくるぞ！
手強そうなやつが現れたな、これぞ古戦場！！ さあ、しっかり働いてくれよ！
おおお！ これは興味深い……貴重な計測値が取れたぞ。
ウィダルゲルト！ 来てくれたんだな！ ◇◇◇！ 君もよくやってくれた、期待以上だぞ、うん！
紹介しよう、この男は、ウィダルゲルト。格闘士ギルドがよこした護衛かつ、吾輩の理解者かつ、
最大の協力者、いわば一番弟子、つまり君の兄弟子だ！
たまに言うことを聞かんと、「チャクラ」だ「気」だと、非科学的なことに、うつつをぬかすのが玉にキズだが……。
ん？ んんん？ もしや、あれはシラディハの痕跡では……！？ 素晴らしい！ これは素晴らしいぞっ！

ウィダルゲルト： 気をつけて！ また魔物が出ますよ！
博士の、あの研究に対する行動力に驚かれたでしょう？ そしてさらに……今、あなたの身体に起きた変化にも
驚き、戸惑いをおぼえていますね？
この古戦場に流れる強い「エーテル」の影響で、あなたの体内を巡る「気」を司る「チャクラ」が開きました。
そう、先ほど、あなたの額から発せられた光のことですよ。
挨拶が遅れました、ウィダルゲルトです。博士の紹介に加えると「ラールガー星導教」信徒の中で
特殊な武術を修めた「モンク」という修行僧です。
「モンク」はこの拳にて、いかなる敵をも制す者。それを可能にするのが、肉体に宿るエネルギーが凝縮する
「チャクラ」を開き「気」を制御することなのです。
この「チャクラ」はすべての人に備わっていますが、誰にでも開くことができる、というわけではありません。
「チャクラ」を開き「気」を制御し、自在に操るためには、それこそ、長い修行が必要なのですが……
稀に、資質に優れる者が「気」の影響を受け、「チャクラ」が一気に開くことがあるようです。
……僕も、はじめてお目にかかりますよ。
「モンク」の才を発揮したあなたへ、特別に、これを差しあげておきましょう。「モンクの証」と呼ばれるものです。
「モンク」だけが持つことを許された秘石。本来ならば、教団の許しが必要なのですが……
「チャクラ」を開いたあなたには、手にする資格があります。
あなたの才が開花したとき、その秘石に刻まれた先人たちの記憶と技を受け継ぐことができるでしょう。
しかし、これはモンクの修行の道の始まりにすぎません。その後は「チャクラ」をより大きく開き
「気」を自在に操るすべを、身につける必要があります。
古来より、若き修行僧は、先達が魂をぶつけた場所……すなわち「古戦場」を巡り、己の心身と技を磨くことで
「チャクラ」を開いていくものとされてきました。
偶然ながら、博士の研究対象も「古戦場」……。彼に同行することは、きっとあなたの「チャクラ」を
より大きく開くことにつながるでしょう。
おや、エリック博士がお帰りだ……博士の護衛は私が。あなたは「エーテル計測器」を回収し、
彫金師ギルドの「エリック」博士に届けてください。



エリック： おお、帰ってきたのか。吾輩は、早速、今回の計測結果の分析を始めたところなので、用ならあとにしてもらいたい。
おお、「エーテル計測器」を回収してくれたのか。いやいや、君は気が利くな。……で、今回の調査はどうだったかね？
なに？ 「モンクの証」を受け取っただと？ まったく、ウィダルゲルトの奴に感化されたのか。
まあ、弟子同士で仲がよいことは吾輩としても喜ばしい。
次は、ウィダルゲルトと手分けしての計測になるだろう！ 君に割り当てる古戦場は、なかなかの危険地帯だ！
今のうちに、モンクの技とやらを磨いておくんぞ！！

青き古戦場

エリック： おお！ 間に合ってよかった！ 危うく吾輩ひとりで、古戦場へと赴くところだったぞ。
今回はウィダルゲルトと同時に、ふたつの古戦場を調べるという画期的な試みに参加してもらう。
君の兄弟子、ウィダルゲルトは、もう出発したぞ！
「エーテル計測器」は、設置してくれれば、「エーテルの濃い場所」を探し出し、記録してくれる。
しかも、測定した値は、すぐさま吾輩に転送されるという優れモノ！
君やウィダルゲルトのような、脳が筋肉でできてそうなタイプは、周辺の魔物と適当に戦って、測定結果を待っているがいい。
勝手にエーテル値が測定され、吾輩の研究データとなる。
そもそもエーテルとは、あらゆる「魔法」の原動力にして、すべての「命」の源たる不可視の生命エネルギーであり、
生物が死んだとき、その命が宿すエーテルは霧散する。
だが時として、その一部が霧散せずこの物質界に…………… その一例が……………クリスタル……………その……………だが、
……………吾輩は「エーテル」に……………と踏んでいるのだ！！
わかりやすい例を挙げるなら……………で…………… ……………だから……………を……………
……………した……………を「エーテルの門」と呼んでいる！
生命が激しく散ったとき、クリスタルは…………… 不可視のエーテルとして、残留エーテルはその量を増す！
その、激しく生命の散る場所とは……………
そう！！ 古戦場だ！！！ つまり、残留エーテルを調査すれば！！！ 逆説的に、戦いの規模などが推測できるというわけだ！！！
そして、君やウィダルゲルトが騒ぐ「気」や「チャクラ」もエーテルと関係がある……………いや、エーテルそのもののものだ。
それを非科学的な名称で呼ぶのは、まことに腹立たしい！
古戦場に渦巻くエーテルは、周辺の魔物に蓄積している。そんな魔物を倒せば、君たちのいう「チャクラ」も拡大し、
「気」とやらを、さらに強化することができるだろう。
最新鋭のエーテル理論、さすがの君も理解できただろう！ アラムゴに住む吾輩の妻子は「研究馬鹿のたわごと」とぬかし、
吾輩のもとから去っていったが……………
……………うむ、前置きはここまでにしておこう。
君は、東ラノシアの「ブラッドショア」の担当だ。適切な場所に「エーテル計測器」を設置し、
しばらくしたら「エーテル計測器」を回収して帰還せよ。
吾輩にはエーテルのデータが残り、君たちは「チャクラ」は、大きく開かれるだろう。これぞ一挙両得！
本来、ブラッドショアの歴史を理解した上で任務にあたるべきだろうが、説明の時間が惜しい！
それでも、戦史を知りたいなら、吾輩に再び話しかけよ！



エリック： む、ご苦労だった。「エーテル計測器」を返してもらおうか。
むむむ……………計測器が少々、壊れてしまっているな。すぐに修理へ回そう。そのために、吾輩はこの彫金師ギルドにいるのだしな。
この計測器は、吾輩が企画した緻密な設計図を、「ガーロンド・アイアンワークス」が製図して、
彫金師ギルドが製作しているのだ。
ウィダルゲルトの調査結果も先ほど届いたので、吾輩は、早速、今回計測結果の分析を開始する。用があるなら、後にしてくれ。
いずれにせよ、計測器の修理と計測場所の選定には時間がかかる。次の計測を心待ちにしながら、
鍛錬とやらに、せいぜい励むことだな。

不和から至る旋律

エリック： ◇◇◇！ ハハハ、待っていたぞ！ 素晴らしい、実に素晴らしい、この感動を伝えるため！

吾輩は昨晚、辞書を片手に、修飾語を列挙していたのだ！

何の話かわからんだと！？ とほける必要はない！ 君が取得したデータの話だ！ 実に正確！ 実に見事！

君はエーテル計測の天才だ！ その才能に敬意を表そう！

思い返せば、半西紀……「マルドティー真菌培養事件」以来、吾輩は孤独に、この道を走り続けてきた。そのことに後悔はない。

だが今、君たちのような弟子を持ち、吾輩は幸せだ！ 次の道行きは、かくも楽しいものだったか！ この感動は、まさに数値化不可能だ！

……と、いかんいかん。吾輩としたことが、本題を忘れるところだった。

次なる古戦場の選定の最中、吾輩は妙なことに気づいた。エオルゼアには、古戦場とされていない場所でも、

エーテルが乱れている場所が多数存在していたのだ。

これまでの吾輩は、「エーテルが乱れている場所、即ち古戦場」という仮説を前提として研究を進めてきた。

だが今回の発見を鑑みると、過去の人間が、「エーテルの乱れている場所を戦場に選定した」という、恐ろしい可能性に思いいたった！

ウィダルゲルトには、アラミゴとグリダニアの境界にして、「紅葉戦争」の契機の地「ファインサンド平野」で

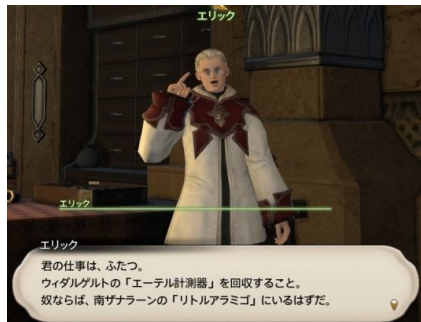
エーテル計測を行うよう指示してある。

君の仕事は、ふたつ。ウィダルゲルトの「エーテル計測器」を回収すること。奴ならば、南ザナランの「リトルアラミゴ」にいるはずだ。

そして、もうひとつの仕事は、エーテルの乱れている土地…… 南部森林の「蛇殻林」にて「エーテル計測器」を設置し、回収することだ！

吾輩は引き続き、エーテルが乱れた土地の割り出しを急ごう。「紅葉戦争」を語るに外せぬ「ファインサンド平野」について

知りたければ、吾輩に再び話しかけるがいい。



ウィダルゲルト： こんな辺境まで、ご苦労さまでした。どうかしたのですか？

なるほど……「エーテル計測器」を回収に来たと…… ……困りました。実はまだ、計測が終わっていないんです。

博士に言われ、すぐ設置に向かったんですが、計測結果が出るには、もう少し時間が必要です。もう間もなくだとは思うのですが……

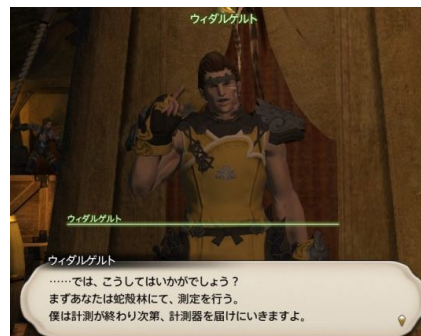
ふうむ……あなたが博士に指示された場所は、南部森林の「蛇殻林」ですね。

「古戦場でないにも関わらず、エーテルが乱れていた場所」でしょう？ 今朝、博士に呼び出されて聞かされましたからね。

……では、こうしてはいかがでしょう？ まずあなたは蛇殻林にて、測定を行う。

僕は計測が終わり次第、計測器を届けにいきますよ。

無駄足を踏ませてしまい、もうしわけありません。では……「蛇殻林」にてまた……。



ウィダルゲルト：さすがですね、◇◇◇。順調に「チャクラ」を開いているようで、なによりです。
あなたに先んじるつもりが、一足遅かったようです。この地に宿る「気」は、あなたのチャクラを開いた。
……これでは、僕のチャクラが開かない。
以前も言いましたが……僕たち「モンク」は「気」の満ちる古戦場を巡り、そこで修行を積むことで、
「チャクラ」をより開くすべを身につけます。
ですが、誰かが一度チャクラを開いた場所では、「気」が乱れてしまって、当分チャクラを開くことができない。
つまり、僕の目的地だった「ファインサンド平野」に、あなたが向かったところで、もうチャクラは開きません。
「ファインサンド平野」の計測なんてしていませんよ。急いでここへ向かうつもりが、同志との協議で、
「リトルアラミゴ」に立ち寄ったのが、まずかったようです。
ああ……博士に責められるか心配ですか？ 大丈夫ですよ、僕もここで計測を行えばいい。
きっと「新しい事象を発見した！」と大喜びするでしょう。なんといっても、別々の場所で計測した結果が、
完全に一致することになるんですから。
問題ありませんよね？ あなたが黙ってさえいれば、博士にはわからない……。そうでしょう？
◇◇◇、あなたにだけは、話しておきます。僕は、都市アラミゴのガレマール帝国からの解放を目指す、
レジスタンス組織「アラミゴ解放軍」を率いる者のひとり。
帝国兵の目を盗んで「内地」へと脱出し……。多くの仲間や武器を集めるため奔走しています。
けれども、ここでは……「内地」では、僕が思っていた以上に、アラミゴのことは忘れ去られようとしていました。
小さな組織の協力を得ましたが、力が足りません。やはり自分たちが、大きな力をつけてアラミゴを救わねば。
そのためには、もっとチャクラを開く必要があるんです！
博士は悪い人ではありません。でも、彼には研究しか見えていない……。人々の苦しみなど、彼は興味がないのでしょう。
それでも僕たちは、博士の古戦場の知識が必要です。ひとりでも多くの同志が、チャクラを開いて強くなるために！
もしもチャクラを開く道が閉ざされてしまっても……僕たちは……いえ、僕は、どうしても力がほしいんです！
もう虚げられるのも、飢えるのもたくさんだ！ 一度でいい……。平和なアラミゴをこの目で見てみたいんです！
……失礼。少し感情的になってしまいましたね。
僕の「エーテル計測器」は、あなたに預けますが……。くれぐれも、この件は博士には内密に……。



エリック：戻ったのか……。ならば、2つのエーテル計測器をさっさと渡してくれたまえ。
よし、確かに受け取った。……むむむ、君たちの測定結果から、恐るべき新事実が判明しそうだぞ……。！
だが、結論づけるまでには、時間が必要だ。その間、君はモンクの技の鍛錬に励むといい。
ところで、何だね、さっきから君の袋が光っているが？
……なに、モンクの新しい技を覚えただって？ 鍛錬にうってつけの課題ができたな、はっはっはっ。
これも、エーテルの力なのか、やはりすばらしい。

チャクラの波紋

エリック：ぬぬぬぬ、君たちは……吾輩をコケにしたな！ 入手した情報を解析し、天にも昇るほど興奮したが、冷静に思考を重ねた結果、恐るべき推測にたどり着いた！ 君とウィダルゲルト！ まったく同じ場所ですべてを測ってきたらう！！ ……同じような計測値に、吾輩は悩みに悩んだ！ 夜も眠らず、便所にもいかず悩んだ！ おかげで、真相に気付いた時には失禁寸前だった！ バカにしてるのか、君たちは現地で何をしていたのだ！？

……なるほど「チャクラ」か。正確には「不可視のエーテル調整弁」。科学的に呼称すればそうなる……名付け親は吾輩だ。やれやれ……ウィダルゲルトにも君にも、しっかりと学術的解説をしておくべきだったと、吾輩は今、激しく後悔している。ウィダルゲルトやモンクたちのいう「気」とは、「エーテル」のことであり、同一のものだ。これらは、生命エネルギーとも言い換えられる。そのエネルギーの流れを自由に増幅させ、コントロールするのが「不可視のエーテル調整弁」だ。すなわち君たちのいう「チャクラ」なのだよ。

「気」などと呼ばず、エーテルと呼ばばよいものを、「ラールガー星導教」の連中は、選ばれた者にのみ扱えと、選民思想のように名称を詐称しておる……これぞ宗教の本質。生命エネルギーであるエーテルを誰しもが持つように、そのエネルギーを調整する機構もまた、皆に備わっておる。「不可視のエーテル調整弁」がそれだ。

誰にでも開くわけではない、というのは確かに事実だが、ウィダルゲルトや君は、すでに開きかけを持つのだ。焦らずともよいものをウィダルゲルトのやつめ……。まあ、今回は若気の至りということで大目にみよう。吾輩も若い頃には多くの誤り……俗に言う勘違いをして、何時間もの演説を行い、冷ややかな視線を浴びたものだ。そういえば、ウィダルゲルトは、特に「第七のチャクラ」というものを重要視していた。「モンク」の究極目的は、それを自在に操ることらしい。今回、君たちが同じ場所で測定したことに気付いたのは、君たちのエーテルの流れ……。つまり「チャクラ」がノイズとして記録されていたからだ。おもしろいのは、そのノイズだ！ ノイズの波形は、古戦場のエーテルの波形と共鳴していたのだよ！！ ……つまり、こういふことだ。特定のエーテル波形を持った古戦場に行けば、それに対応した「チャクラ」が、より開く。修行なくして、最初に君の「チャクラ」が開いたのは、君の素養もさることながら、その波形との共鳴があったからだ。その事実から導き出されるのは……

ウィダルゲルトの言う「第七のチャクラ」が実在するのなら、どこかに「第七のチャクラ」に対応した、エーテル波形を持つ場所が存在するということになる！ 「第七のチャクラ」という究極の「チャクラ」が存在するのなら、究極の「古戦場」が存在し……究極に高まったエーテルがどこかに眠っているということ！ ……よし、決めた！ 今度は、君たちが調査対象だ！ 君には新たに「エーテル計測器」を渡しておこう！ 吾輩が文献から導き出した古戦場、エーテルの乱れが見られる場所…… 東部森林の「ラークスコール」が、次の調査地だ！ 君は、現地に「エーテル計測器」を設置し、周囲の魔物と激闘を繰り広げてみてくれ。エーテルにさらされた魔物を倒せば、エーテルの波と共鳴して、君のチャクラは更に開く！ 吾輩は、その数値を次なる研究データとすればよい！

ウィダルゲルトには……君とかち合わぬよう、「イーストエンド混交林」に行ってもらおう！ なんとという優しさ！ なんとという完璧な比較実験！！

そうそう、君の目的地の歴史なら、本でも探せ。「イーストエンド混交林」の歴史ならば、吾輩が丁寧に教えてやろう。

エリック：君とウィダルゲルトの計測結果が楽しみだ……。なに、君はもう測定を終えたのか？ ならば、早く「エーテル計測器」を渡したまえ。素晴らしい、実に素晴らしいよ！ 君の「モンクの証」とやらも、実に、まばゆく光っているではないか！ 君のデータを検証するのが楽しみだ！ それにひきかえ、ウィダルゲルトときたら……。……何があったのか、聞きたい顔だな。知りたいならば、もう一度、吾輩に声をかけよ！

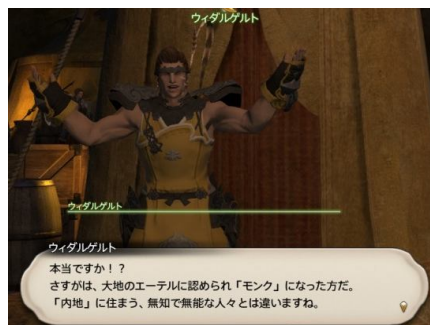
無明の内地

エリック： ウィダルゲルトに、君を寄こすよう頼まれてな。南ザナランの「リトルアラミゴ」へ行ってやってくれ。
……ところで君は、ウィダルゲルトを危ういと思わんか。思うだろ、思うよな？ 革命だ反乱だと、生産性のないことばかり考えて……
ウィダルゲルトのもとを訪れたら、君からもぜひ、「人はもっと未来に生きるべきだ」と、ガツンと伝えてやってほしい。
奴は、生まれのせいとか、いろいろなものに縛られすぎだ。……ああ、奴の活動のことなら、もちろん知っている。
奴は、吾輩が活動のことを知らないと思っているようだが……。……吾輩も故郷を、アラミゴを愛しているからな。
さあ、急いで奴のもとへ行行ってやれ。……まあ、引きとめていたのは吾輩ともいえるが。頼んだぞ。

ウィダルゲルト： ……話したんですね。とほけないでください、僕のことです。エリック博士に、僕のことを話したんですね？
……はあ……別に怒ってはいませんよ。ガレマール帝国に反撃するなど、死者を増やすだけだと
説教されましたが……そう言われると想定していました。
そこで博士には、とりえず納得したふりをしておいて、問われるままに「モンク」に伝わる話をしたんです。
……例の「第七のチャクラ」の件ですよ。
博士は「これで研究は新たな段階に入る！」と、大喜びでしたよ……もっとも、僕も博士のおかげで、
「第七のチャクラ」に近づけそうです。
そう……あなたもその目に焼きつけてほしい。もうすぐ、アラミゴで反撃の狼煙が上がるのを！
「内地」の奴らは、知ろうとしない。アラミゴの民が、いかに彼らを守ろうとしてきたか……。
外敵への盾となり、その血を流してきたか……。
「内地」の奴らには、想像できないだろう！ 自分たちの盾となっていたアラミゴの民が、
帝国の占領下におかれた後、どんな暮らしをしているか！
けれど……あなたのような才能にあふれる「モンク」が協力してくれれば、アラミゴの復興は必ず叶うと、僕は信じています。
僕は古戦場をめぐり、新たなチャクラを開く旅の中で、冒険者の◇◇◇に出会った。そして、あなたの才能は本物だ。
だから、あなたにもアラミゴ解放を手伝ってほしい。もちろん、見返りは十分にありますよ。
僕が着ているこの服は「モンクの戦装束」と呼ばれるもので、身につけた者の「チャクラ」を、最大限に開く手助けをしてくれます。
この「モンクの戦装束」は、「ラールガー星導教」に入信した正式な「モンク」が、
幾つもの試練を越えて、ようやく与えられる神聖な装束。
……この戦装束を手に入れる方法をお教えします。もちろん、「ラールガー星導教」に入信する必要はありません。
ただ、「モンクの戦装束」を身に身に纏い、アラミゴ解放のために、共に戦ってほしいのです。
そして、見事アラミゴを解放した暁には、また自由に冒険すればいい。いかがでしょう、共に戦っていただけますか？

いいえ
そこをなんとか……共に戦っていただけませんか？ 「モンクの戦装束」は必ず役に立ちますよ。

はい
本当ですか！？ さすがは、大地のエーテルに認められ「モンク」になった方だ。
「内地」に住まう、無知で無能な人々とは違いますね。
実は、賊に盗まれた「モンクの戦装束」があるのです。それらのありがたは、すでに突き止めています。
そのありがたは、南ザナランの「放浪者の埋葬地」と、同じく「焼かれし者の里」。そして、北ザナラン「アマジナ霊銀山跡」の3か所。
「モンクの戦装束」に近づくと、「モンクの証」に反応して、装束が発光します。これを目印にすれば、探し出せるでしょう。
「ラールガー星導教」の伝統を踏みにじった不屈き者から、必ずや「モンクの戦装束」を奪還してください。
「ラールガー星導教」や「モンク」について、あなたがもし、もっと深く理解したいなら、博士に尋ねてみるといい。
彼なら、聞いていないことまで喜んで説明してくれます。「内地」に魂を売ってしまったエリック博士にも、
アラミゴ人の血は流れているのですから……。
では、道中お気をつけて。あなたと、ともに戦える日を楽しみにしています。



ウィダルゲルト : おお、見事に取り戻したようですね、さすがです。こちらは、残りの装束の在処について、盗品商たちの情報網を洗い、目星をつけ終えたところ……。それらしき品を所有している「キキルン商人」が、低地ラノシアの「ゴッスグリップ」で密談中のようです。急ぎ向かい、「モンクの戦装束」を奪還してください！

キキルン商人 : くせくせ、曲者っちゃ！ ぶんぶんっ、商談のじゃまするなっちゃ！ 傭兵、いっきに、かたづけろっちゃ！

キキルン商人 : 命だけは、お助けをっちゃ！ 戦装束は返すっちゃ！



ウィダルゲルト : 本当に4つの戦装束を集めてしまうとは！ ……ですが、実は「モンクの戦装束」は5つでひと揃え。残るひとつは、アラミゴの反撃の狼煙を上げ、その祝杯をあげるときに、お渡ししましょう！ ……決行の日は、もう目前に迫っています。先ほど、エリック博士から連絡がありました。なんでも歴史的発見をしたそうで、論文の執筆を開始するとのこと。探りを入れたところ……博士の発見が、アラミゴ復興の切り札になりうることがわかったのです！ つまり、論文の完成がアラミゴ復興の日。ウルダハの彫金師ギルドの「エリック」博士のもとへ戻り、論文の完成時期を確認しておくといいでしょう。それでは、またお会いしましょう。

エリック : おお、戻ったか！ ウィダルゲルトの様子などを聞きたいところだが、今、吾輩は歴史的発見の論文執筆で大変忙しい！ 論文を完成させ、学会で発表する日は近い！ それまで、君も、抑えきれぬ興奮を、鍛練にでもぶつけながら待っておれ！

魔王の帰還

エリック： はっはっは！ 愉快痛快！ あいつらの間抜け顔といったら！
「砂礫戦争」のアマルジャ族、「グランドウェークの戦い」のアラミゴ兵もかくや！
あー、おかしー！ しかし、この天才的比喩表現が、君にまったく伝わらないのは、とても残念だ！！
学究の徒らしく、結論から言おう！ 学会は大成功だ！ 誰もが吾輩の言葉に悶絶！
地鳴りのような拍手とは、ああいうのを言うんだろう！
すべて、君とウィダルゲルトのおかげだ！ 吾輩の頭脳を遣わした神々と、ウィダルゲルトと君を
派遣してくれた格闘士ギルドに、賛辞を送らねばな！
ところで……ウィダルゲルトは、どこへ行った？ 向学心が目覚めたのか、学会の会場に奴を見た。
だのになぜ、未だ吾輩に感動の言葉を述べにこんのだ！？
ああああああああああああああっ！！！！！！
なんたること……。吾輩は戦争の後押しをしてしまったのか……。まずい、これはまずいぞ！！
そもそも吾輩は、前回の計測で君とウィダルゲルトの眠っている「第七のチャクラ」と思しき波形を割り出し、
それと共鳴する波形を持つ場所を突き止めた。
……それはモードウナ「銀泪湖北岸」。かの地を調べ、そのエーテルの波から導き出される結論により、今回の西紀の大発見を行ったのだ！
……これが、学会で発表した内容。その学会の会場には、ウィダルゲルトの姿があった……。
これは、つまり「第七のチャクラ」を開く場所を、奴に教えてしまったことに他ならない！
……そして、もともとウィダルゲルトは、祖国アラミゴを取り戻すために、ガレマール帝国の技術力に匹敵する「力」を欲していた。
「第七のチャクラ」は、奴が真っ先に考えつく「力」だろう。
……アラミゴの悲劇は、二度と繰り返してはならん。「目に見える力」だけでは、だめなのだ！
まさか、君まで戦争に加担するつもりではあるまいな？
◇◇◇！ ウィダルゲルトを止めてくれ！ 奴は、十中八九モードウナ「銀泪湖北岸」にいる！
……吾輩の言葉では、だめなのだ。実の子にすら届かなかった、薄っぺらい言葉だ。しかし君の言葉なら、
あいつに届く……いや届けてみせよ！



ウィダルゲルト： ……言ったでしょう？ 自分の「力」でないものを過信するなど。自らの「力」で戦う僕を倒せるはずがないのに……。
もうすぐ、僕の「第七のチャクラ」が開く。そうすれば、僕の力は、帝国軍のそれを凌駕するでしょう。
「魔導の力」……恐るべき、ガレマール帝国の「力」…… こんなものなのか……。
こんなもの……たった、これっぽっちの……。
こんなものにッ！ アラミゴは負けたのかアァッ！！
◇◇◇。あなたの到着を心待ちにしていました。
いや、邪魔が入ったので、ちょうどよかったのかもしれません。
僕を追ってきたガレマール帝国兵ですよ。あいつら、僕の素性に気がついたようでして……。
ああ……やはりこの場所だ……。そしてあなたが来たとなん、僕のチャクラがうずく……。
……ねえ、あなたにわかりますか？
いつ己が奪われるか、わからない恐怖……。毛布一枚を奪い合う浅ましき……。芋蔓一本に生かされる、みじめさ……。
ガレマール帝国は、アラミゴからすべてを奪った！ あのエリック博士の姿から、あなたも理解したはずだ！
帝国はアラミゴの民の「誇り」すらも奪っていった！！
だから……僕はすべてを取り戻す「力」が欲しい。「第七のチャクラ」を目覚めさせれば、それが叶う！！
ああ、わかっていますよ……約束でしたね。あなたに最後の戦装束をさしあげる、と。
……守りますよ、ただし……僕を倒せればの話です。
最初に会ったとき、言いましたよね。「チャクラ」を開くためには、ふさわしい場所での「鍛錬」が必要だ、と。
「第七のチャクラ」を開くのは、博士が発見したこの地！ この場所で、限界まで強くなったあなたとの死闘を経て、
僕の「第七のチャクラ」は開く！
僕のため、そしてアラミゴの民のため……。死んでくれますよね？
多くの命を救うために、あなたの命を……。
僕にくださいッ！！



紫電のウィダルゲルト : あなたとの死闘で、僕のチャクラは必ず開く！ アラムゴの民のために……あなたの命をいただきます！
 紫電のウィダルゲルト : あなたの第七のチャクラも、開きかけているようですね……。
 紫電のウィダルゲルト : ですが、第七のチャクラを開き力を得るのは、この私です！ 譲るわけにはいかないのです、すべては祖国アラムゴのため！！
 紫電のウィダルゲルト : おかげさまで、身体から湧き出る気の扱いにも慣れてきました。そろそろ、決着をつけるとしましょう……っ！
 紫電のウィダルゲルト : はっはっはっ、ああ……なんて素晴らしい力だ！ 私の気で作った弾……私に似て、執拗にあなたを追い続けますよ！

ウィダルゲルト : う、うううッ……なぜだ、もう少しなのに…… なぜ、僕に「力」を与えてくれないッ？！
 近寄るなッ！ 僕は、この「力」を……「力」を抱えてッ……！
 誓ったんです！ たとえ「力」が屍を増やすとしても！ 「力」がなくては、守れないものがあるから！
 ……「力」さえあれば、守れたものがあるから！
 ……◇◇◇……その力は……

エリック : 先ほどの光！ 「第七のチャクラ」が、完全に開いたようだな！！
 成し遂げた者の顔をしている！ ありがとう！ よくぞ、ウィダルゲルトを救ってくれた！

ウィダルゲルト : ……なッ！？
 な、殴りましたッ！？ あなた、僕を……。



エリック : やかましいッ！！
 ああ、殴ったとも！ 文句があるか、この石頭め！ 心配させおって！ まったく、こうなる前に、言わねばと思っていたんだ！！
 ようく聞け！ 「ガーロンド・アイアンワークス」のシド・ガーロンド…… 彼が発表した論文によると、この地は「惑星の中心」だ！
 ……知っているかね？ 世界は、丸い球……惑星「**ハイデリン**」というものの上に
 へばりつくようにしてあり、我々はその上で生を営んでいるのだ。
 吾輩は、天文学者や生物学者ではない。しかし超自然探求者として、はっきり言えることはひとつ。
 惑星「ハイデリン」に満ちる生命エネルギー。……つまりエーテルこそ、君たちのいう「気」だ。
 世界の中心と「チャクラ」は繋がっているのだ！
 それすなわち…… この偉大な世界と、君たちは同じ存在だということ！
 その力は、時に日照りや嵐を起こして荒ぶる必要があるだろう！
 だが、この偉大な世界がもたらすのは、それ以上の幸福だ！ 大地を支え、命を生み育て、未来を紡ぎだしている！
 君たちも、そうあらなきゃならんのだ！！
 ウィダルゲルト、お前のやろうとしたことは、ガレマール帝国となにも変わらん。「力」を「力」で奪っても、未来になど進めん！！

ウィダルゲルト： そんな綺麗ごとを……。もう一度、言えますか？
湯のようなスープをわけあう、兄弟の前で！ 死人を抱いて、助けを求める女性の前で！

エリック： ……言わねばならんだ……。
言わねば、ならんだよ！
たとえそれが、どんなに今は苦しく辛くとも。たとえそれが、愛する妻や、我が子の耳に響かなくとも。
言い続けること、そして、これまでの戦史が語るように、「力」では、なにも生まないということに気づくことでしか、
愚かな我々は、未来には進めんのだ。
力を担う者は、偉大な世界と同じ重責を果たす義務がある！！ 君がここ「内地」で学ぶべきは、過去ではなく未来だ！
未来を切り開く「力」を、どう使うかを学ぶべきだ！
……それが、祖国の人々を導く者の務めだろう？
ありがとう、◇◇◇。すべて、君が協力してくれたおかげだ。
戦史研究者として、ひとりのアラミゴの民として。心から、感謝する。
正直なところ、あの石頭がそうそう砕けるとは思わん。しかし、砕けてもらわなければ困る、なにしろあいつは……。
……おっと、これはまたの機会にでも話すとしよう。
とにかく、話を聞いてやってくれ。でなければ、あいつの中で折り合いがつかんだろうからな。

ウィダルゲルト： ……少し前のことです。僕と同じように解放運動をしている人に、戦う理由を聞かれました。
僕は迷わず「復讐」だと答えた。……その人は言いました。
「一番ありふれていて、一番危険な理由だ」と。
その時は、意味を考えようとも思いませんでしたが…… 今なら、少しは考えてみてもいいかな、と思います。
……ありがとうございました。あなたと博士が、僕のことを考えてくれたおかげです。
この恩に報いるため、あなたとの約束を果たしましょう……。
さあ、受け取ってください、最後の戦装束です。これは……「第七のチャクラ」に開眼した、あなたにこそ、ふさわしい品だ。
「内地」とはアラミゴ以西の、エオルゼア諸都市を指す。この大陸の東端、エオルゼアの外側にあるアラミゴは、
「内地」を侵略する「力」に立ち向かってきた。
帝国に制圧され、落ち延びた僕たちに「内地」の人は、なにもしてくれようとはしなかった……。
そして、アラミゴを忘れさせようとしている。
それでも博士は、平和を唱え続けると言う。今はまだ、その言葉の本当の意味を僕は理解できません。
僕たちは、誇りあるアラミゴの民です。エリック博士の息子も、誇りあるアラミゴの民でした。
……博士を調べたときにわかったことです。博士の息子は、祖国解放のための戦いで命を落とし……。
しかし博士はあのとおり、それで博士のことを臆病者だと……。
でも博士も同じく、誇りあるアラミゴの民だった……。それに気づかなかった僕の目は、自分のチャクラほどに
開いてはいなかったということですね。
それでは……僕はこれで。ルールガーの加護が、あなたの上にありますよう。



登場人物

エリック：アラミゴ出身のエオルゼア戦史研究家



ウィダルゲルト：アラミゴからきたモンク「アラミゴ解放軍」を率いる



ガガルナ：格闘士ギルド受付



キキレン商人

